

① 地域コミュニティ



夏まつり

東区では、町内や校区での活動が盛んに行われ人と人とのつながりが充実しています。

これは、町内自治会や校区自治協議会など町内単位あるいは校区単位で自主的に組織された地域団体が自らが住む地域をより良くするための活動を通して、人と人とのつながりを築き、住みやすいまちづくりに取り組んでいるからと考えられます。

しかしながら、核家族化の進展や生活様式の多様化など社会的環境の変化により地域での連帯意識の希薄化が進み、東区でも自治会加入率は年々

減少する傾向にあります。

また、区民アンケートで地域での活動に参加しない理由として「活動の情報がない」という意見も多く、情報の提供方法にも課題があると考えられます。

この自治会加入率の減少は地域コミュニティ活動の担い手不足にも影響を与えていることから、効果的な情報発信を含め新しく転入してきた区民が地域に入り込めるきっかけづくりが必要です。

一方、区民アンケートに回答されたほとんどの方は今後、清掃活動やまつりなどの地域行事や、健康づくり活動など自己研鑽のため地域活動に参加したいと考えていることから、個人の「参加したい」という想いを地域活動につなげる仕組みづくりが必要です。

また、地域コミュニティ活動を拡充していくためには、地域団体だけでなく、事業者や学校などが自分たちが住むまちへの想いを共有し、連携して地域の歴史文化や自然の良さを継承していくとともに、眠っている地域資源の掘り起こしに取り組んでいくことも必要です。

② 防犯・交通安全



秋の交通安全運動

東区内の刑法犯認知件数は、過去5年間の推移をみると減少傾向にありますが、平成23年は1,646件で、特に自転車盗、万引き、車上ねらいなどの窃盗犯（約75%）が多く発生している状況です。

また、交通事故の発生件数は、1,160件（平成23年）で、そのうち子ども（幼少から高校生）や高齢者の事故が2割を超えている状況です。

事故の特徴としては、半数近くが朝または夕方の時間帯に交差点付近で発生しており、いずれも前方不注意や一旦停止を怠ったことが原因となっています。

なお、商業施設が集中する東バイパスでの暴走族による深夜の騒音や粗暴行為等は、平穏な生活を脅かし、治安を悪化させる要因の一つと考えられます。

区民アンケートによると防犯や交通安全対策が重要と答えた人の割合が多い一方で、それらの取り組みに不満を持つ人の割合も多いことから、今後、犯罪や交通事故のない安全で安心なまちをつくるために、警察はもとより、区民、地域団体、NPO等、事業者、学校、区役所等が連携・協力のもと、犯罪や交通事故が起きにくい環境づくりを推進するとともに、子どもや高齢者をはじめとする区民一人ひとりの防犯意識の向上と交通事故防止対策の徹底が必要です。

③ 防 災

東区は、住宅地が多く、住宅地の中を河川が流れているように短時間で局地的な大雨が降った場合には、流域に氾濫してしまう都市型水害が発生してきました。藻器堀川、健軍川等の川沿い流域、及び下江津湖の北西部や南東部において浸水のおそれがあります。

また、活断層については熊本市内に「立田山断層」と「布田川・日奈久断層」が確認されていますが、東区の南部に「布田川・日奈久断層」の一部がかかっています。今後30年以内の地震発生確率は極めて低い状態ではありますが、発生した場合は震度6強が予想されます。区民アンケートでは、「地域の防災体制の整備」（約67%）、「災害に強いまちづくり」（約63%）について重要視されていますが、不満に思う区民の割合が高いことから防災体制の強化が必要です。

現在、小中学校等が一時避難所として指定されていますが、平成24年7月九州北部豪雨では、白川沿いの託麻地区に多くの被害をもたらし、住民に身近な地域の公民館や老人憩いの家なども避難所として使用されました。地域と区役所が連携して危険箇所を認識し、被災状況に応じた避難方法や避難場所の検討も必要であり、また、避難される高齢者や障がいのある人など「要援護者」に対して十分な配慮が必要です。



防災訓練

④ 健康・福祉

全国的な高齢化社会の進展に伴い、様々な福祉ニーズが高まる中、東区においても年々高齢者の割合が増加傾向にあり、高齢単身世帯やいわゆる老老世帯が増加していくことが予想されるため、高齢者の安全確保が課題となっています。

また、区民アンケートでは、「障がいのある人が安心できる暮らし」（約68%）について重要視されていますが、地域に相談する人がいないなど不満を持つ区民の割合が多い状況です。また質問の回答で「わからない」と答えた方が多いことから、障がいのある人と接する機会が少なく、また接し方に戸惑っている方が多いことがうかがえます。

高齢者が安心して暮らせるよう、また、身体、知的、精神のほか発達障がいなど多様な障がいを理解し、障がいのある人が地域で自立して暮らせるよう、地域の各団体が連携し、地域全体で見守り支え合う体制を充実しながら適切な支援を行うことが必要です。

健康面においては、本市は政令指定都市の中で人工透析実施率が高く、生活習慣病の1件あたりの医療費（平成23年度）が政令指定都市で糖尿病1位、高血圧2位、という状況から、東区においても、生活環境や食生活の変化により自覚症状のないまま気付かず重症化している人がいると思われます。そのため、地域ぐるみで声を掛け合い、生活習慣病の発症や重症化を予防する更なる健康づくりの取り組みが必要です。



ふれあいサロン

子育てについては、若い世代の割合が高い東区では、保育園の定員充足率は公私立共に110%台であり、いわゆる「待機児童」が存在している状態にあります。待機児童を減少させ、保育需要に応える体制が必要です。

そのような中、第6次総合計画の市民アンケートによると東区では子育てが楽しいと感じる割合が他区に比べて最も高く、地域で行われる子育て支援活動への参加率も2番目に高いことから、子育て支援活動に関心のある方が多いと思われます。

⑤ 文教・歴史

近年、学校では、いじめや不登校など、子どもたちを取り巻く環境が厳しさを増しています。また、学校教育に対する保護者や地域住民のニーズが多様化する中、これまで以上に教職員には高い指導力が求められています。一方では、保護者の目の届かないところで、子どもたちの健全な育成を阻害する有害情報等の要因もあり、子どもを家庭だけでは十分見守れないという現状もうかがい知れます。

今後、学校、家庭、地域が更に連携を強化し、地域全体で子どもを育てる環境の体制づくりが必要です。



四時軒

また、東区内には熊本県立大学と東海大学・熊本キャンパスがあることから、若い力を生かしたまちづくりが期待されています。

東区には、幕末の思想家横井小楠の記念館（四時軒）があり、日向六地藏塔、正平塔（石燈籠）などの貴重な文化財があります。また肥後神楽の伝統文化や夏越し灯路まつりなど地域の魅力ある様々なお祭りなどの地域文化が伝えられています。

このような中、区民アンケートでは「文化に親しむ機会」（約２２％）「地域の歴史にふれる機会」（約２３％）について他の項目と比べると満足度が低いことから、歴史・文化の保存と活用や地域文化の掘り起こしなど、文化や歴史にふれる機会の更なる場の提供が必要と思われます。

⑥ 自然・環境

区の北部には、託麻三山（神園山、小山山、戸島山）とそれと隣接して熊本県民運動公園があり、その周囲は広々とした農地とあいまって良好な自然景観を形成していますが、託麻三山においては、竹林の広がり等で自然環境の悪化が懸念されています。

区の西南部には１日４０万トンもの湧水量を誇り、貴重な植物、魚が生息する江津湖や約１２０種１,０００頭の動物と約７４０種５万点の植物を有する動植物園等があり、市民の憩いの場となっています。しかし近年、ブラックバスなどの外来生物やウォーターレタスなどの外来植物が異常なほど繁殖し、本来の豊かな生態系に大きな影響を与えており、今後の悪化が懸念されます。

このように、恵まれた美しい自然環境を将来に渡って保全・活用し、共生していくためには区民アンケートでも重要視されている生活環境の美化に取り組んでいく必要があります。



江津湖

⑦ 産 業

農業については、小山・戸島地域では、酪農や肉用牛、豚、馬の飼育が盛んに行われ、本市畜産の一大産地となっています。また、供合、秋津、画図等の地域では、田畑が整備され稲作を中心に麦や大豆なども栽培されています。

また、地域と連携して、お祭りや田植え体験等の開催や、地元で収穫された大豆を学校給食に活用するなど地産地消を推進する取り組みが行われています。

しかしながら、優良な農地が高齢化や後継者不足などの影響による荒廃を懸念する声もあり、進展する住宅地と農業の共生が求められています。

一方、商業では、全国的に郊外型大型ショッピングセンターの出店や店舗の老朽化、店主の高齢化などにより、人通りが途絶えた商店街が問題になっています。



小山・戸島地域の牛舎



健軍商店街

そのような中であって、東区においては「新・がんばる商店街77選」にも選ばれた健軍商店街での医療・福祉・子育て機関と連携した医商連携の取り組みをはじめ、京塚繁栄会での空き店舗を利用したコミュニケーションの場「京塚生き生きカフェ」の運営や買い物弱者支援のための「ふれあい市」を開催など、各地域で地域に根ざした活動が行われています。

しかしながら区民アンケートにおいては、「商店街のにぎわい」について不満を持つ区民の割合が多く、近隣の大型ショッピングモールへ買い物客が流出する傾向にあるため、地域と連携した更なる商店街のにぎわい創出の取り組みが必要です。

工業については、区の北東部の運動公園に隣接して木材工業団地があり、戸島町に東部金属工業団地と多業種からなるコスモ工業団地があります。また、区の中央部に総合鉄工団地が立地しており、南西部には、印刷業等のアド工業団地と電設工事関係等の電工団地があります。

また、熊本インターチェンジ近くには熊本トラックターミナルが立地しており、本市の物流拠点として機能しています。

区民アンケートの「雇用の場」については、約57%が重要と回答されていますが、不満を持つ区民の割合が約41%と多い状態であるため、企業誘致など雇用の場の創出が必要です。

⑧ 道路・交通

国道57号（通称東バイパス）や一般県道熊本空港線（通称国体道路）、一般県道戸島熊本線（通称新外線）、主要地方道熊本高森線（通称電車通り）など主要な幹線道路は整備されているものの、地域からは生活道路の要望が多く出されています。

公共交通については、路線バスは主に幹線道路を走る他、市電は主要地方道熊本高森線上を走り、終点の健軍町電停が主要な発着点となっているため、沿線住民にとっては利便性が高くなっています。

しかしながら、託麻東や託麻北校区などの幹線道路から外れた一部の地域においては、便数が少なくバス停から遠いことから利用者にとって不便な状況にあります。



健軍町電停

また、幹線道路は中心市街地から放射状に延びており、区内の南北方面への路線がないため、公共交通の利便性が悪いことが指摘されています。

このような中、区役所等へのアクセスや日常生活での利用のため、熊本市で初めてコミュニティバス「ゆうゆうバス」の運行を開始しましたが、東区の託麻循環ルートと画図・桜木ルートの2路線とも利用率が低迷しているため利用率の向上策の検討が必要です。